

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	20

事業所番号	1490700083
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみ杉田
訪問調査日	平成23年2月17日
評価確定日	平成23年3月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700083	事業の開始年月日	平成21年8月1日	
		指定年月日	平成21年8月1日	
法人名	社会福祉法人 愛光会			
事業所名	グループホーム みなみ杉田			
所在地	(235-0033)			
	神奈川県横浜市磯子区杉田3丁目17-12			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所一年を過ぎ、個々の利用者のニーズに対応できるケアを行う事を目標とし、利用者の皆さんが自由に生活している事を感じてもらえる雰囲気作りに力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成23年2月17日	評価機関 評価決定日	平成23年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①このホームの経営母体は社会福祉法人愛光会で、理事長は横浜市瀬谷区で運輸、幼稚園を手がけ、地元へ奉仕する気持ちから横浜市瀬谷区に福祉の事業展開をし、特別養護老人ホーム“みなみの苑”その後“みなみの苑”に併設するデイサービス、居宅介護支援センター、グループホームは近くに3つと相模原に1つを開設、相模原はデイサービス、居宅介護支援センターを併設している。平成21年、地域の要望により横浜市磯子区杉田にこのグループホームを、更に翌22年に同じ敷地内に小規模多機能事業所を開設し現在に至っている。このホームのロケーションは京急杉田駅から徒歩10分足らずの横浜市の中心地にあり、横浜市、地元の期待が高い。
 ②開設して2年未満であり、隣にある1年未満の小規模多機能事業所と併せて体制固めの段階にあるが、先行しているこのグループホームを先ず安定させ、小規模多機能事業所をサポートして行く方針で取り組んでいる。管理者は両施設を兼務しているが、常にケアの現場に立ち、率先垂範し、気付いた点はその場で解決する方法で体制作りを進めている。狙いは「皆が笑顔で喜んでいる姿」であり、スタッフは自分のことは自分でやることで、業務に達成感を持つ流れが確立出来ている。
 ③管理者の自慢の出来る点では家庭の延長線として、家庭と同じように、好きな生活がすることが実現出来ている点である。家庭的とは少人数の団体で、自分の家と言えるような状態、スタッフは見守り、補佐をする状態であり、これを実現出来ている。
 ④地域との関係では自治会に加入し、運営推進会議にも自治会副会長に参加してもらい、地域の夏祭りや駅前のイベントに参加するなど順調に地域との交流が広がっている。近くの幼稚園とも交流があり、幼稚園の夏祭りに参加したり、ホームの敬老会やもちつき大会に来て頂いたりとの交流をしている。日常でも幼稚園のある近所の公園に散歩に行ったり、幼稚園児がXmasのイルミネーションを見に来たりとの交流をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみなみ杉田
ユニット名	ひかり

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心安全信頼の理念を基本に、安全には充分気を配り、利用者が安心した生活が出来るように支援していく。	法人の理念は「安心安全信頼」であり、この「安心安全信頼」は利用者・ご家族に対するメッセージである。この理念を基本に、地域と密着しながら、安全には充分気を配り、利用者が安心した生活が出来るように支援している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板などには、しっかり目をとうし、参加出来るものは、積極的に参加しています。災害時の応援協力も結んでおり、お互いに親睦を深め交流しています。	自治会に加入し、運営推進会議にも自治会副会長に参加してもらい、地域の夏祭りや駅前のイベントに参加するなど順調に地域との交流が広がっている。近くの幼稚園とも交流があり、幼稚園の夏祭りに参加したり、ホームの敬老会やもちつき大会に来て頂いたりの交流をしている。回覧板などには、しっかり目を通し、参加出来るものは、積極的に参加している。災害時の協力して頂ける体勢にあり、お互いに親睦を深め交流している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流をもつ事で、認知症の方への理解を支援して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会の時に、現状報告、行事、施設からのお願い、困っている事、などを話し合っていく事でメンバーの方のご協力を得ています。	運営委員会のメンバーは自治会から副会長（民生委員）ケアプラザ館長、地域包括支援センター、地域代表（大家さん）、ご家族（1F、2F、小規模）、利用者代表それにホーム関係者である。運営委員会は小規模とと合同で行い、現状報告、行事、施設からのお願い、困っている事、などを話し合い、メンバーの協力を得ている。見学はグループホーム、小規模両方を見てもらおうようにしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委員会の報告書を持参した時に、立ち話程度になりますが、情報交換をしています。	市町村とは2施設設立の関係で再々連絡を取っており、運営委員会の報告書を持参した時には情報交換をしている。地域包括支援センターはホームのケアマネ経由で連絡があり、小規模のデイの紹介や見学に来てくれており、行事にも参加して頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ワーカー同士が常に話し合い、拘束をしない対処方法などを考えながら、ケアをするように心掛けている。	身体拘束をしないケアについてはスタッフ同士が常に話し合い、拘束をしない対処方法などを考えながら、ケアをするように心掛けている。鍵はユニット・非常口は開放している。玄関は治安のためオートロックとなっており、ご家族の了解を得ている。出たい時は一緒に出てあげ、閉塞感はない。言葉の問題では、目上の人なので子ども呼びは失礼と教育し、「さん」付けで呼ぶようにしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送りは、管理者も含めて行ない 毎月のユニット会議などで意見を出して頂き、お互いの意識の向上に努める。問題は、先回しにしないすぐ解決をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時などに、成年後見人制度について説明をしているが、職員が学ぶ機会は、設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られ、本入所前の事前面接の際に一応の説明は、しておくが、本契約の際に再度説明します。納得頂いて初めて規約書にサイン捺印して頂き、双方で一冊づつ契約書、重要事項説明書を持つようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時などは、良く話しを聞くようにする、今の様子などをお知らせし、家族の要望などを聞かせて頂くようにしています。問題が発生したり、苦情があった時は、ユニット会議を開きすぐに対処するように心掛けている。	家族が来訪した時などは、良く話しを聞くようにし、現在の様子などをお知らせし、家族の要望などを聞かせて頂くようにしている。利用者の声は本人の言葉をそのまま書くようにし、利用者の態度に出たときは何かを訴えていると考え対応するよう努めている。問題が発生したり、苦情があった時は、ユニット会議を開きすぐに対処するように心掛けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱に意見があった時は、全体会議で話し、意見をまとめ、上司に検討して頂き、業務に反映していきたいと思っています。	処遇改善のキャリアパスなどについては法人全体として取り組み、職員の処遇に繋げる検討をしている。職員の意見や提案は基本的にはミーティングで聞くようにしているが、意見箱を設け、意見があった時は、全体会議で話し、意見をまとめ、上司に検討して頂き、業務に反映するようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に残業させないような仕事の工夫を指導し、働き易い職場の環境を整えてあげる。休憩はきちんと取らせる、有給休暇を使える環境作りに努める。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や一部の職員しか、研修に参加していない為、今後はできるだけ多くの職員が参加出来るように検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設との交流は無いが、関連施設合同の会議が月に一回あるので、そこで意見交換などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見も尊重し、色々な話の中から本人の考えている事や、困っている事が解ってあげられれば良いが、なかなか直ぐには難しいが、話しかける事を忘れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望は、聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面接を行ない、グループホームでどのようなケアが必要か、マッサージなどの利用も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てやってしまうのではなくここは、自分の家なんだと理解をして頂、自分の事は自分でやって頂くように支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、職員が日々の生活の様子や困っている事などを相談させて頂いて日々の生活の中に取り入れさせて頂いています。 家族からも要望や意見を聞かせて頂き、ケアに役立てるように心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、行きなれた公園やスーパーなどに買い物に行ったり、家族と外食 外泊などもして頂けるように支援している。	入居者は近所の人が多く、また最近では小規模多機能経由での入居者も多いので、本人の希望があれば、古くからの知り合いに会ったり、行きなれた公園やスーパー、杉田の商店街などに買い物に行ったり、家族と外食 外泊などもして頂けるように支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている				
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方などには、時々面会に行ったり、時折電話などで近況報告を聞かせて頂いたりして関係は、今までと変わり無く継続しています。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々利用者とのコミュニケーションを忘れず、一人一人のニーズを引き出せるよう働きかけ自分らしい生活が出来るように支援する。	先ず本人と話し合うことを基本としている。介護度も現状は話し合える状態にある。日々利用者とのコミュニケーションを忘れず、一人一人のニーズを引き出せるよう働きかけ、自分らしい生活が出来るように支援する。ケアプランも自分の希望する計画であり、楽で、本人も楽しいものを目指している。やりたい事は行動を記録していると分かってくる。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー 家族 知人などから情報を収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分に合ったペースで生活して頂ければ良いと思っている。けして無理せず強要せずいやがる事はさせない、心穏やかに1日が過ごせるように支援する。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に、必ず家族とモニタリングし、ご本人様にも意見を言って頂きケアプランを作成しています。ケアプランは、個々のケース記録の1番前に付けて、その方に合ったケアをする事を心がけるようにワーカーさんをお願いしています。	ケアプラン作成前に、必ず家族とモニタリングし、本人にも意見を聞きケアプランを作成している。モニタリングは毎月3人ずつ順次行い（1人づつは3ヶ月に1回）、前月の3人については翌月に結果を公表し、解決したらそのまま継続、解決しなかったらもう1ヶ月経過を見る形で進めている。ケアプランは、個々のケース記録の1番前に付けて、本人に合ったケアをする事を心がけるようにスタッフを指導している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回のカンファレンスや日々のせいのかゆの中で木になる事などがあれば、その都度職員間で情報交換をし、ミーティングを開き、意見を出し合い今後のケアにつなげていけるように努力をして行く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望に依り外食 外泊 外出などは、そのつど対応している。出来る限り利用者の要望にも応えるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の回覧板に載っている行事から参加出来る物を探して利用者と一緒に参加している。町内の行事や幼稚園の行事などにもお声をかけて頂くので参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携を結んでいる。週に一回の往診、年に一回の健康診断、予防注射、専門医の紹介などをお願いしている。	医療連携体制をとり、かかりつけ医との提携を取っている。かかりつけ医は週に一回の往診、年に一回の健康診断、予防注射、専門医の紹介などをお願いしており、18人中16人が受診している。残り2名はももとの主治医にかかっており、1人はご家族と通院、もう1人はその主治医がホームに往診に来てくれている。かかりつけ医を特に薦めることはせず、医療連携体制の中での選択をして頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が勤務し、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは、とても良い関係です。往診に来て頂いているので、情報も密に連絡している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の先生の方から、その時期が来た時に家族を呼んで今後の方針を話し合い、家族の考え方に沿った方法で終末期を迎えられるように支援していく。	往診の先生の方から、その時期が来た時に家族を呼んで今後の方針を話し合い、家族の考え方に沿った方法で終末期を迎えられるように支援している。医療連携体制を取っているが、基本的には医療の設備が無いので方針に沿った施設への協力をしている。系列に特養”みなみの苑”があるので、それを含め病院等への相談・支援を行なっている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、マニュアルを元に速やかに行動し、必要に応じて救急蘇生法、なども出来るように勉強会で訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、町内会と消防応援協力を取り交わしていますので、町内の方々の協力を頂いて、敏速に行動するように努めます。	災害時には、町内会と消防との応援協力して頂ける体勢にあり、2月25日には自治会と共催の夜間想定避難訓練を予定している。町内会と消防との応援協力とは杉田町西部町内会、磯子消防署と覚書を横浜市では初めて交わした例であり新聞にも紹介された。ここが被災した時には町内会館へ、近所が被災した時には小規模多機能へ避難するなどの内容となっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私達より人生の先輩だと言う事を忘れず、常に尊敬の心で対応するように心掛けている。失敗しても大きな声で怒らないように努めている。	利用者はスタッフより人生の先輩だと言う意識を常に忘れず、尊敬の心を持って対応するように心掛けている。利用者が失敗しても大きな声で怒らず、どうして失敗したかを聞くように努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声かけをして利用者の意思を聞き出しレクレーションにつなげたりして支援している。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で判断出来る方は、今日1日のスケジュールを決めて頂く様に支援する。自分で判断出来ない方は職員と一緒に相談しながら無理の無いスケジュールを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師さんがカットに来られるが、自分で意見を言って好きな髪型にしてる。出掛ける時などは、似合うものを出してあげこの洋服とても似合いますよなど声かけをする。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、盛り付けやきり方も工夫して、召し上がって頂く様に心掛けている。片付けも職員と一緒にやって頂く様に支援している。	食材は食材会社のレシピ付きのものを活用している。食材会社は無理の利く、比較的規模の小さいところを利用し、一人一人の好みを把握し、盛り付けやきり方も工夫して、提供する様、心掛けている。片付けも職員と一緒にやって頂いている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食材を業者に依頼し、管理栄養士にカロリー計算を出して頂いています。水分はチェック表で管理している。10時と15時には必ず150cc～200ccの水分を飲んで頂くように声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が口腔ケアのチェックをしている。磨き残しがある時は職員が仕上げ磨きをしている。週に2階歯医者さんの口腔ケアもして頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方は排便の確認をしっかりと取るように声かけを忘れずするように努める。介助の方は排泄チェック表を参考に定期的に誘導をする。	利用者はほとんど自立であり、自立の方は排便の確認をしっかりと取るように声かけを忘れずするように努めている。介助の方は排泄チェック表を参考に定期的に誘導をする。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取 繊維の多い食品 水分を多めに飲用して頂くなどで対応、それでも困難な場合はお薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日出来るようにしてありますので本人の希望があれば、毎日入浴する事も可能ですが、介助の必要な方は、こちらのローテーションで入浴して頂いています。	お風呂は週2回が原則であり、毎日入れるように沸かし（日曜日はお休み）、本人の希望があれば、毎日の入浴も可能であるが、介助の必要な方は、原則、ホームのローテーションで入浴して頂いている。利用者は殆んど自立なので、入るのも着脱も自分で、頭と背中のみサポートしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は個々のペースに合わせて取って頂いています。夜間ぐっすり休んで頂く為に日中は体を動かして頂くように声かけを忘れない。就寝時間も個々に好きな時に休んで頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報書は個々のケース記録の1番前に入れています。いつでもどんな薬を飲んでいるのかが把握出来るようにしている。週に1回先生の往診があるのでその時に、先生に利用者の状況をお話して指示を頂いています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的に自分の事は自分でする事になっている。自分の部屋の掃除 洗濯もの干し 食事後の食器洗いなどは、自分d r j j である。出来ない方は出来る方が交代でやってあげるように、皆で協力し合って行うよう支援する。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の対応は、順番に職員の買い物の時に一緒行き支援している。出来る限り希望に沿った外出支援はしています。	お散歩では歩ける人、歩けない人に分け、歩ける人は杉田商店街（100円均一もある）や幼稚園の上の公園へお弁当を持って行き、歩けない人の場合はコンビニ経由で一回りし、1日1回は外気に当るよう努めている。一人一人の対応は、順番に職員の買い物の時に一緒行き支援している。出来る限り希望に沿った外出支援している。地区センターへ囲碁やカラオケに出かけたり、外食はお誕生日などに行っている。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来る方は、自分で持って頂き支払いをして頂く、後で収支を書いたノートーなどを見せて頂き残りは預かる。自分で管理の出来ない方は、職員が管理をし買い物などの支援をします。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけて頂けるように公衆電話が置いてありますので、皆さん自由にかけてお話しています。お手紙も書ける方は書いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房 加湿器のどを活用し居室の温度が過度に上がったり下がったりしないように 目配りをするよう留意する。 いつでも季節感が感じられるように季節の物を置いたり飾ったりする工夫をしている。	床暖房 加湿器を設置し、居室の温湿度が過度に上がったり下がったりしないよう留意している。いつでも季節感が感じられるように季節の物を置いたり飾ったりする工夫をしている。利用者とスタッフで作った大作を壁に掲示したり、布でインテリアを施したり、作品(ぬり絵、習字など)・写真を貼り出している。スタッフでインテリアが得意な人がいて、作っているところ、出来た作品と一緒に撮った写真をご家族に送っている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどできつろいでテレビを観たり気の合う人とお話しができるように職員も気配りをし声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は家族と利用者の1番くつろげる場所なので入居時に家族と利用者で居室のレイアウトはして頂いています。気がね無くいつでも遊びに来られるようにと配慮しています。	各居室の設備はエアコン、ベッド、箆筒、照明、カーテンが常備されており、入居時に家族と利用者で居室のレイアウトをして頂いています。居室を家族と利用者の1番くつろげる場所として、気がね無くいつでも遊びに来られるようにと配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一度起こした事故は、二度と繰り返さないように職員で原因を追究し安全対策を考えるように努めている		

事業所名	グループホームみなみ 杉田
ユニット名	のぞみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心安全信頼の理念を、基本に安全には充分気を配り、利用者が安心した生活が出来るように支援していく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板などにはしっかり目をとらし、参加できる物は積極的に参加しています。災害時の応援協力の調定も結んでおり、お互いに親睦を深め交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流を持つことで、認知症の方の理解を支援をして頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会の時に、現状報告、行事、施設からのお願い、困っている事などを、話し合っって行く事でメンバーの方のご協力を得ています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の、報告書を持参した時に、立ち話程度になりますが、情報交換をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口のドアは、安全確保のため、施錠を行っているが、各階の入り口、踊り場、ベランダ等への施錠は、行わず、利用者が、自由に行き来できるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、虐待防止法を理解し、ユニット会議などで話し合い、職員の意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時などに、成年後見人制度について、説明を行っているが、職員が学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られ、本入所前の治事前面接の際に、一応の説明はしておくが、本契約の際に再度確認しながら説明します、納得頂いて初めて契約書にサイン捺印して頂き、双方で一冊づつ契約書を持つようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時などは、良く話を聴くようにし、今の様子などを、お知らせして家族の要望などを聞かせて頂くようにしています。問題が発生したり、苦情があった時は、ユニット会議を開き、すぐに対処出来るように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱に意見があった時は、全体会議で話し合い、意見をまとめ、上司に検討して頂き、業務に反映していきたいと思っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に残業させない様な、仕事の工夫などを指導し、働き易い職場の環境を整えてあげる、休憩時間をきちんと取らせる、有給などを使える環境作りに努める。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や、一部の職員しか研修に参加していない為、今後は、できるだけ多くの職員が参加出来るように検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設との交流は、無いが関連施設の会議が月に1度あるので、そこで意見交換などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見も尊重し、色々な話の中から、本人の考えている事や、困っている事が判ってあげられれば良いが、なかなかすぐには、無理があるが話しかける事を、忘れないように勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の要望は、聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面接を行ない、グループホームでどういケアが必要か、マッサージなどの利用も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になり、理解をしてあげるように努める。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との意見交換をし、同じ考えを持って対応する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が行かれる程の距離であれば、買い物の際に一緒に行くように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に一人一人の行動に気を配り、一人ぼっちにさせないように努めている。共通の話題などを見つけて、皆で共有できるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も大きなイベントがある時は、今まで道理お誘いをしたり、利用者の様子を聞かせて頂いたりして、交流している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人に合ったケアをして行く為に、個々の考えを聞いてあげて、自分らしい生活が出来るように支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー、家族、知人、などから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日毎日が、単調な生活にならない様に、その人に合った生活のリズムを作ってあげる、でも決して無理な強要はしないように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中で、現場から見た利用者の様子を話し合い、ケアプランにつないでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族とのカンファレンスは、事あるごとに行っている。家族、職員の思いでケアプランを作るのでは無い、利用者の為のケアプランである、と言う事を頭においてプランを作るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合った対応を、素早くキャッチし敏速に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センターに顔を出し、参加出来る物があれば、積極的に参加出来るようお手伝いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携を結んでいる、週に一回の往診、年に一回の健康診断 予防注射 専門医の紹介などをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が勤務し、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と、とても良い関係です。往診に来て頂いているので、情報も密に連絡している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の先生の方から、その時期が来た時に家族を呼んで、今後の方針を話し合い、家族の考え方に沿った方法で終末期を迎えられるように支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、マニュアルをもとに速やかに行動し、必要に応じて救急蘇生法、なだも出来るように勉強会で訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、町内会と消防応援協力を取り交わしていますので、町内の方々の協力を頂いて、敏速に行動するように努めます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が一番気にしている事は、他の人の前では言わない、失敗をしたり間違っただけでも、大きな声は出さない、入浴は、一人一人対応している。トイレの際は、ドアを閉める。などプライバシーを守るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、やりたくない事、出来る出来ない、などの把握をして、声かけをしながら意思表示が、出来るように導いて行くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の、ペースで穏やかに、一日が過ごせるように支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時などは、職員と一緒に洋服選びをしたり、これがとても似合いますよ、今日はこれが良いかもしれないですね、などお話しをしながら本人の意見を、尊重する事を忘れないようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好きの物食べやすい大きさ硬さなどを把握して喜んで食べて頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の管理栄養士により、カロリーコントロールが成されている。水分量の把握は水分チェック表を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、職員が毎回チェックしている。週に2回訪問歯科の、口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を見ながら、時間でトイレの声かけをし、誘導するようになってから、パットへの失禁が減ってきているので、声かけを忘れないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が何日出ていないかを把握するその状態から考えて乳製品や繊維を多く含む食品を召し上がって頂くお薬コントロールなど個々に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立の方であれば、毎日でも入浴して頂くことは出来ますが、介助の必要な方は、ローテーションで入って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人にペースに合わせて、休息して頂いているが、夜間不眠な方は午睡の時間を短くしたり、日中の散歩を促したりし、夜間ぐつすり熟睡できるように支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、個々のケース記録の一番前に貼ってあるので、職員はお薬の把握はしている。往診時に健康記録を見て頂き先生からの指示を貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の洗濯物干をたたむのは、やって頂いています。出来る限りなんでも一緒にやって頂く様に、声かけを一人一人にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のペースに合わせて、一日一回は必ず、外出をするように心がけている。職員で対応出来ない時には家族に協力して頂く事もあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお預かりして管理していますが、自分で管理できる方は買い物に行く時に、だいたいの予算でお渡しして自分で買って頂いています、後で残りは、計算して又預けて頂いています、管理の出来ない方は、職員が持って一緒に買い物に行くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に使えるように廊下に設置して有ります。お手紙などもレクで作った物、等を家族に送るように声かけを忘れないようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう、室内温度 湿度には気を遣うようにしている。季節の判る花 写真 レクで作った物などを飾ったりして工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の居室でテレビを友達と観たり、リビングのテーブルの他にソファで喋りをしたり、して楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、家族と利用者の好きなレイアウトでお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の安全性を考え、一人一人のニーズに合った介護をする為に、何か気づいた事があつたらすぐスタッフ会議をして、事故が起きる前に、対応を考えるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームみなみ杉田

作成日

平成23年2月17日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
	7	虐待についての研修に もっと積極的に参加して 勉強したい。	職員全員が研修に参加出 来るようにしたい。	ある程度の期間を定め研 修資料を見つけて参加し ていくようにしていく。	1年
	12	職員の数がぎりぎりでは 有給が取りづらい	余裕のある人数で仕事が 出来るように新しい職員 を育てていきたい	あせらずゆっくり時間を かけて新人を育ててい く。	1年
	33	重度化してきたり終末期 を迎えるようになって来 た場合は職員の医療的な 知識も多少必要になって 来るので皆で勉強会など を開いて知識を共有して いきたい	対象になる利用者がいれ ば週に1回位の割合で その方の現在の様子など を話し合い今後の方針な どを決めておく	気が付いた職員が声かけ をしてミーティングの時 間を作るようにする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。